

<b>小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表</b>
--------------------------------

法人名	社会福祉法人 瑞穂会	代表者名	手嶋 寛人	法人・事業所の特徴	独居高齢利用者・高齢者のみ利用者・家族が自営業を営んでいる利用者・訪問リハビリを利用されている利用者など多様な利用者の受け入れおよび在宅生活・在宅介護の支援を行っている。利用者・家族の状態・状況変化に応じた支援を心がけており、急な通い・泊まり・訪問依頼に対応できるよう登録者の上限(29名)まで受け入れはせず、相談・依頼に対応できるような体制としている。
事業所名	小規模多機能やなぎ苑	管理者名	金原 豊明		

出席者	市町村職員	知見を有する者	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事務所職員	その他	合計
	人	3人	3人	人	人	1人	人	3人	2人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A 事業所自己評価の確認			本人の目標(ゴール)は何が目標となるのか、限られた職員数で日々のケアだけで大変な事だと思ふ、その中で利用者の方を良い方へ持っていかうと考えて取り組んでいくのは大変だと思ふ	今回できている項目の継続および今回できていなかった地域との連携やサービス運営、質の向上などについて意識して業務に取り組む事ができる
B 事業所のしつらえ・環境			外来者用駐車場の表示がない為、外から来た方は車をどこに停めて良いのかが分かりにくいように思ふ、駐輪場も表示があった方が良いように思ふ	初めて来苑される方にも分かりやすい事業所となるよう工夫する
C 事業所と地域のかかわり			お年寄りはおしゃべりがしたいという思いがあるが特に昔の話に共感してくれる人と「おしゃべりをしたい」という思いを切実に感じる、施設の中の介護職員が地域の人や民生委員などと繋がっていないように感じる、今後、繋がりを作る為のきっかけを作っていく必要がある	事業所自己評価の改善計画同様、利用者が自宅で生活されている事で地域と繋がっている事や苑での支援にも地域の人々と協力している内容がある事、事業所も地域の資源の1つという事が理解でき、地域との関わりを意識する事ができる
D 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			特に意見はなし	地域にある事業所の一員として事業所単体でなく様々な機関と協力する事ができる
E 運営推進会議を活かした取組み			特に意見はなし	今後も運営推進会議の中で事業所の取り組みや改善点等を報告・相談する事ができる
F 事業所の防災・災害対策			万が一の時に「第2やなぎ苑へ行こう」という考えが地域の中に出てこない、災害時は総代が隊長となって動く為、必要な方を第2やなぎ苑へ振り分けていく事も可能だと思ふ、大規模災害時に施設職員自身が施設に来られるかも課題、災害はどれだけ想定しても現実には想定外の事ばかり発生する、地域の田圃が徐々に減っている為、矢作川決壊時の建物浸水も分からなくなってきたり、町の防災井戸以外に飲用以外の井戸が2カ所ある	地域にある介護事業所として大規模災害時の役割を意識・検討する事ができる